

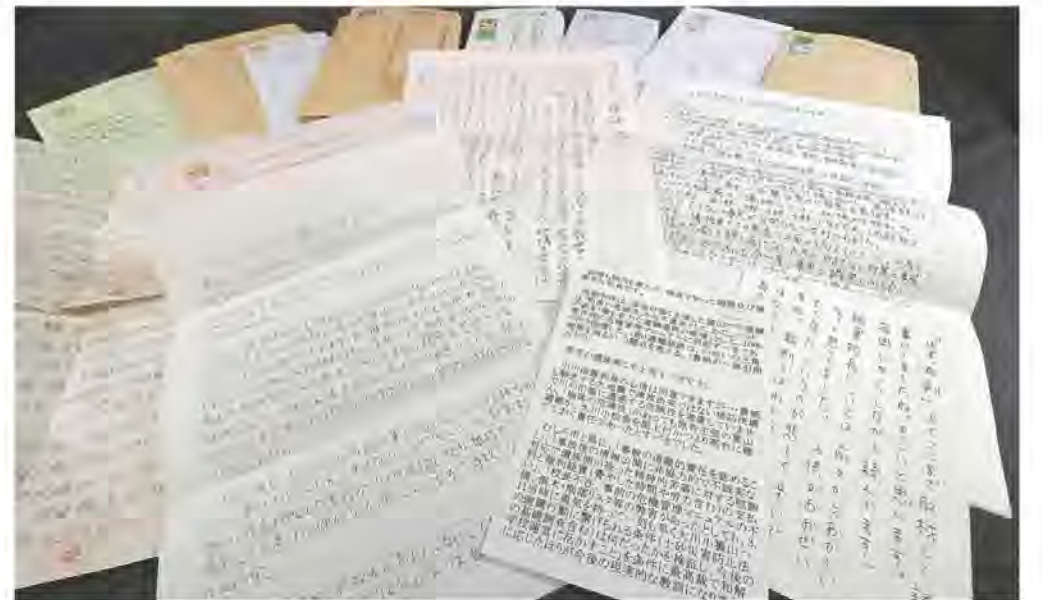
止まった刻

検証・大川小事故

読者からの反響②

長期連載「止まった刻 検証・大川小事故」は、東日本大震災の津波で児童74人が死亡・行方不明となり、教職員10人が亡くなった石巻市大川小の事故を追ってきた。連載は1月に始まり、8日現在、第10部「模索」まで計47回を掲載した。学校側と石巻市教委の組織的な過失を認めた4月26日の仙台高裁判決への反応を含め、取材班には連日、読者から多数の声が寄せられている。命に真摯に向き合おうとする読者の思いを紹介する。

(大川小事故取材班) = 3面に関連記事



河北新報社に寄せられた手紙やはがき

高裁判決に思う

市長や知事 謝罪必要

事前防災の過失について、仙台高裁は石巻市教委の責任も認める司法判断を示した。「良かったな」と思う気持ちとは別に、何とも言えないむなしさを感じる。

なぜ避難が遅れたのか。裏山に教職員や保護者が一体となって児童を誘導できなかったのか。この原因が明らかにならなければ、児童を失った保護者の無念を晴らすことは決してできない。

亀山紘市長と村井嘉浩宮城県知事が遺族方に一軒一軒出向き、両手をついて誠心誠意、謝罪の言葉を述べた以外、遺族の悲しみや怒りを和らげる方法はないのではないかと。

判決は為政者にとって納得できない点もあるかもしれないが、愛するわが子を失った親の気持ちを静めることが何より大切だと思う。(仙台市青葉区・男性)



東日本大震災から丸7年を迎えた大川小。早朝から手を合わせる人の姿が絶えなかった。3月11日午前6時55分ごろ、石巻市釜谷

安全な場所なかった

高裁は「震災前にマグニチュード8.0クラスの宮城県沖地震の揺れや津波で北上川堤防が決壊することが想定されていた」と指摘した。しかし、避難場所として高裁が適当とする「パットの森」への移動経路は浸水する恐れがある。裏山は崩壊する懸念を高裁が認めている。大川小の周辺に安全な場所は存在しなかった。

私見だが、予見したのに事前対策をしなかったことが問題なのではない。「危険だが、対策する予算がない。増税して対策するか、リスク覚悟で現状を維持するか」。こうした判断を議会(民意)に仰がなかったことこそが「事故」ではないか。(匿名)

今後の学校防災に光

高裁判決は学校現場だけではなく、石巻市教委の責任も認めており、画期的だ。今後の学校防災は明るいと思う。ただ、裏山避難そのものを否定し、被災直後に決壊する懸念がある堤防を迂回して、「パットの森」に向かう避難行動も求めている。

連載は、あらゆる視点や立場を冷静かつ多角的に検証しており、客観的に事故を認識することができた。「怠慢な行政が取捨した。良かったね」では済まさない、重厚なシリーズだ。大川地区を含め、多くの国民が行政に命を預けている現状に警鐘を鳴らしていると感じた。(匿名)

他校の教訓にヒント

第9部「明暗」は、高裁判決とは別の切り口で教訓を深く考察するヒントになった。教育委員会や教職員の資質という意味で、事故前の大川小と、紹介された石巻市雄勝小など他の5校は遜色ない印象を持った。

5校は、避難マニュアルの不備を払拭できる環境がそろっていた。一方、大川小は①校長不在②裏山崩落のリスク③屋上がない低層校舎④地域住民の津波意識の欠如という潜在的な課題が重なったと感じる。

今後、全ての学校校舎は屋上付き4階建て以上の耐震構造にすべきだ。学校近隣の高台について、国は崩落リスクがない安全な区域を示してほしい。

第10部「模索」で、高知県黒潮町上川小に「防災参観日」があると知り、非常に参考になった。(匿名)



大川小津波訴訟の控訴審判決後、「勝訴」の垂れ幕を掲げる原告遺族。4月26日午後2時40分ごろ、仙台高裁前

なぜ 問いは続く

危機管理能力が低下

大川小の校長ら教職員と石巻市教委は、いかなる場面でも子どもたちの命を生かし、育てるという「教育の条理」から大きく逸脱していたと言わざるを得ない。

生命の危険を知らせる情報が激しく飛び交う非常事態の中で、教職員は毅然とした態度と信念を持って判断し、行動すべきだった。結果的に最も重要な(避難場所選定という)判断を地元住民に委ね、学校としての意思決定を放棄してしまった。

指示待ち体質の深刻化や、危機管理能力の低下を招いた教育システムの問題にこそ、「大川小の悲劇」の最大の要因が潜んでいると考える。

全国の学校で危機管理能力が低下し、不登校やいじめ絡みの自殺など日本の教育全体が適切に対応できていない。教員と学校は「子どもたちの命をどう守るか」が問われている。(仙台市太白区・男性)

到達 誰も想像できぬ

連載からは「児童遺族」が正義で、「教員」「石巻市」「市教委」が悪といったイメージが伝わってきた。

校庭になぜ長い時間待機していたのかが問題視されているが、大川小は地区の津波避難場所だった。校庭への移動により避難は完了したことになる。校庭には地域住民も集まってきた。釜谷地区に津波が来た記録が過去にないことから、誰もがあの場所は安全だと認識していたに違いない。

それなのに「なぜ、裏山に逃げなかったのか」とたやすく発言できるのか。津波が来ること、ましてや津波が川を遡上してくることなど誰も想像できなかったはずだ。(男性)

先生に責任問えない

大川小は海から4キロ近く離れ、北上川も見えづらい。当時の先生方は津波を現実のものとして想像しづらかったのではないかと。

余震が続く中、地域の住民が集まってきたこともあり、どうしても判断できない様子が容易に思い浮かぶ。結び付きの強い地元住民の声を無視した意思決定が難しいことはよく分かる。

(津波襲来直前に)市の広報車が高音量で避難を呼び掛けて大川小近くを通過したというが、具体的に適切な指示がなかったことも残念でならない。

大川小の先生に事故の責任を押し付けることはできないし、気の毒に思うばかりだ。(名取市・50代男性)

児童らを悼む

避難階段あったなら

連載を読み、初めて大川小を訪れた。川の水位より校庭の方が低いのではないかと感じた。堤防の高さもそう高くはなく、誰が見ても、津波が堤防を越えた場合、一瞬にして沼になる学校であること自体に恐怖を感じた。

第8部「波紋」で、愛知県西尾市の白浜小が学校近くの山に設けた避難道の写真が載っていた。大川小でも事前に裏山に階段などを設置する必要があったと感じた。なぜ作らなかったのか。危機管理の意識がなかったことが残念でならない。(宮城県美里町・男性)

風化させずに後世へ

批判を恐れずに言えば、大川小の悲劇は人災かもしれない。連載で紹介された子どもたちや地域住民の生々しい証言によって、当時の状況がよく伝わってきた。この内容が全国の小中高校などで共有される事を願わずにはいられない。

災害を経験していない人たちは当事者意識が薄いので、判断ミスで多くの命が左右された事実を本気になって考えられないと思う。震災から7年たつが、事故を風化させてはならないと強く感じる。後世に伝えていかなければならない。(男性)

慰霊のために訪問を

大川小での出来事があまりに痛ましすぎて、これまで足が向かなかつたが、震災7年を前に始まった連載に背中を押され、現地を初めて訪れた。

今も訪問者が絶えることはなく、現地で遺族から生の声を聞くことができた。これからは慰霊のため、そして助からなかった「理由」を求めて大川小を繰り返し訪れたい。(仙台市泉区・50代男性)

「未曾有」で済まない

3年前に息子を亡くした。楽しく幸せな時が多すぎたのに、どんなに生きたかったらうか。そんなことばかり考えている。いつか息子に会える(息子が私を迎えに来る)時まで、何も変わらないような気がする。今は息子に喜んでもらえるよう、なるべく悲しい顔はしないよう心掛けている。

第6部「地獄」で紹介された遺族は長男を亡くし、長女は今も行方が分からない。私の倍つらいと思う。「未曾有の大震災だから」の一言では済まされない。仮に子どもが大川小で犠牲になったら、自分も訴訟に参加すると思う。(匿名)

「国、誘致方針早期に」

岩手、宮城県議連が決議



ILC誘致実現を目指し決議を採択した岩手、宮城県議会の議連

ILCを東北へ

岩手、宮城県にまたがる北上山地が候補地の超大規模加速器「国際リニアコライダー(ILC)」の建設実現を目指し、両県議連が7日の超党派議員連盟で7日、宮城県議連で会合を開き、政府に誘致方針を早期に打ち出すよう求める決議を採択した。

決議では、ILCを「国の成長戦略に貢献する極めて重要な計画」と位置付けて、本年中に建設の可否を判断すると求められる政府に

対し、誘致に前向きな方向性を示すことなどを強く要望した。

会合には両県議連の約80人が出席。スイス、フランスに強い影響力がある欧州合同原子核研究所(CERN)などを5月に視察した宮城県議連の報告もあった。

高橋宗也議員は研究所側から「政府の意向表明は今年中が限度」と指摘されたこと明かし「日本の将来を左右する岐路だ」と強調。結論を出せなければ「中国などに計画が移る可能性がある」と述べ、政府の決断を促した。

核ごみ説明会ライブ中継 審査説明終了 8月末見込む

東北電、3度目の延期 原子力規制委員会は7日、東北電力大川原発電所2号機(宮城県大川町、石巻市)の新規制基準に基づく適合性審査会合を開いた。東北電は今後の審査対応スケジュールを見直し、一通りの審査事項の説明を終える時期を、従来7月末から8月末に先延ばしした。延期は3度目。

女川2号機の審査は地震・津波分野がほぼ終了し、建屋の耐震性など設備分野の議論が進んでいる。規制委側から追加説明を求められる場面が多く、「実現可能な日程にすべきだ」と指摘されていた。

審査会合で、東北電は見直し後の日程を示し「これまで以上に効率的な審査に務める」と説明。規制委側は「まだかなり窮屈に感じている。現実的な日程に再考してほしい」とさらなる延期の検討を促した。

東北電は使用済み燃料貯蔵ラックやサブプレッシャポンチェンバー(圧力抑制室)の耐震設計の考え方についても説明した。

▽成立 障害者による芸術活動推進法(閣議決定)▽成立 食糧文化の継承・振興法(閣議決定)以上衆議院▽通過 オゾン層破壊物質に関するモントリオール議定書改正書附随書(閣議決定)以上参議院

法案など 7日

▽成立 障害者による芸術活動推進法(閣議決定)▽成立 食糧文化の継承・振興法(閣議決定)以上衆議院▽通過 オゾン層破壊物質に関するモントリオール議定書改正書附随書(閣議決定)以上参議院

法案など 7日

▽成立 障害者による芸術活動推進法(閣議決定)▽成立 食糧文化の継承・振興法(閣議決定)以上衆議院▽通過 オゾン層破壊物質に関するモントリオール議定書改正書附随書(閣議決定)以上参議院

法案など 7日

▽成立 障害者による芸術活動推進法(閣議決定)▽成立 食糧文化の継承・振興法(閣議決定)以上衆議院▽通過 オゾン層破壊物質に関するモントリオール議定書改正書附随書(閣議決定)以上参議院

法案など 7日

▽成立 障害者による芸術活動推進法(閣議決定)▽成立 食糧文化の継承・振興法(閣議決定)以上衆議院▽通過 オゾン層破壊物質に関するモントリオール議定書改正書附随書(閣議決定)以上参議院